

# ほのぼのファミリー通信 Vol. 7

2001年5月発行  
第1巻第7号(通巻7号)  
発行人:横山 雅之  
発行所:全国二分脊椎症協会  
山形支部  
ほのぼのファミリー  
編集人:横山 和江

## 平成13年度総会開催

去る3月25日(日)、平成13年度日本二分脊椎症教会山形支部総会を、山形県総合運動公園内会議室にて行いました。当日は小春日和。山形県各地から会員が集まり、伊藤さんの司会進行で、和やかに総会をとりおこないました。今回の参加家族は、お子さんの病気や入院、仕事の都合もあり、いつもより少な目の8家族です。残念ながら、協力会員の方の参加はありませんでした。それでも、ここ数年で兄弟が増え、子どもたちは20名近くいました。すっかり打ち解けたボランティアさんと、また子ども同士で楽しく遊んでいました。



### 総会議決内容

#### <副支部長交代>

総会発足時から尽力された佐藤浩幸さんから、熊谷広さんにバトンタッチ。庄内地区からはじめての役員、今後の活躍が期待されます。

#### <今年度の活動計画>

6月にレクリエーション(6月23・24日、鶴岡市の由良海岸に一泊:現在10家族が参加予定)、10月に勉強会を兼ねた芋煮会、来年3月に総会の予定です。その他にも機会を作って会員同士の交流を図れたらと思います。



### 勉強会

は、普段私たちがかかえる問題や不安に対し、奥山さんの体験や考え方からアドバイスして頂く形式で進められました。

奥山さんは、会場にはご自分で車を運転し、車椅子で登場なさいました。はきはきとした朗らかな方で、参加者一同、奥山さんのお話にじっくりと耳を傾けていました。以下に要約します。

#### <自分について>

親元を離れて生活したせいか、自立心が強くなった反面、地元の学校へ通って友達を作ることの大切さを感じられたそうです。

#### <親へ求めること>

障害のために何か失敗したとしても、子どもを責めるのではなく、どうすれば失敗しなくなるのかと一緒に考え、工夫してくれると子どもも前向きに成長できるのではないかと。また、生活の中で、少しずつ病気の話をしなが、子どもに自分の体に対する理解を深めてあげるのも、必要でしょう。

要は、子どもを育てる心構えとして、

- ・あまり親が子どもを守り過ぎない
- ・精神的にたくましく育てる
- ・子どもをマイナス思考にさせない

ためにどうするかという観点で、常に考え行動するのが大切なのではとのことでした。

#### <就職>

山形県は、他県よりも障害者にとって就職が難しいのが現状のようです。そのためにも何か手に職を持っていたほうが良いのではというお話もありました。

#### <スポーツ>

奥山さんは、成人してからスポーツをはじめられましたが、障害者スポーツを通して、自分の目標を達成すること、日本全国に仲間ができたことなどいろいろなことを得られたそうです。二分脊椎の子どもたちも、ぜひ自分のやりたいことならなんでもトライしてみたいとのことでした。

会員の子もたちも、前向きで積極的な奥山さんをお手本にして育ててくれたらいいなと思いました。これからも、ほのぼのファミリーとの末永いお付き合いをお約束して、勉強会を終了しました。

#### <奥山京子さん略歴>

長野パラリンピックのアイススレッジで、銅メダルを受賞。奥山さんは、脂肪腫髄膜瘤で生後1年の時、東北大学で手術を受けられました。5歳から親元を離れて山形県上山養護学校(現 ゆきわり養護学校)に入学、高等部卒業後平成2年11月株式会社山本製作所入社し現在に至っていらっしゃいます。

## 懇親会

いつのまにか、父親・母親チームに分かれ、子どもたちの話から自分たちの近況など、それぞれいろいろな話で盛り上がっていました。子どもたちはおおはしゃぎで広い和室を走り回り、本当に楽しそうでした。懇親会が終わった後も、羽咋さん宅(ありがとう!)へ移動し二次会へ。集まる機会が少ないせいか、みなさん別れがたく、飲み会はいつまでも続くのでした……。(横山)

### 会計からのお願い

みなさんからの納入された会費は、ひとりあたり2,400円を本部会費として、毎年7月に本部へ納入しています。連絡を下さらないまま退会されてしまう方がいらっしゃると、その方の本部会費は山形支部が負担することになってしまいます。年々協年会費も少なくなり、財政も苦しくなっておりますので、ご理解、ご協力ほどよろしく申し上げます。

